

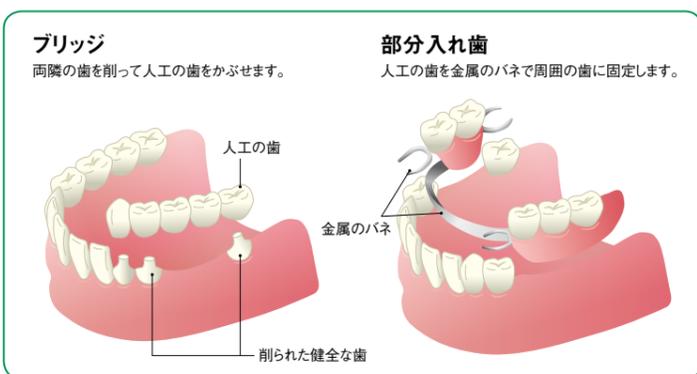
目・耳・鼻・口の病気

インプラント義歯

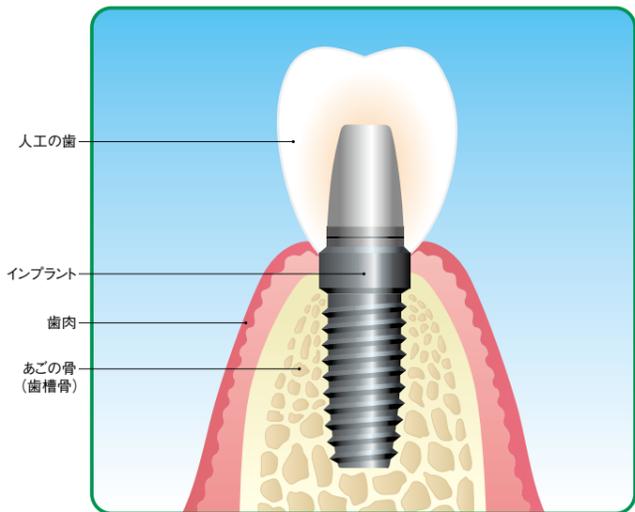
注目されるインプラント義歯

永久歯が抜けてしまった場合、治療の選択肢としてまず考えられるのが、ブリッジと呼ばれる治療法。抜けた歯の両隣の歯を削り、それらを支柱にして人工の歯を入れて固定する方法で、抜けた歯が1〜2本程度で両隣の歯がしっかりとしていないことが条件となる。違和感は少ないが、両隣の歯がたと

え健全であっても削らなければならず、また、それらの歯に負担がかかることが欠点である。もう1つの選択肢は、取り外しができる義歯、いわゆる入れ歯だ。1本からすべての歯が抜けた場合まで対応でき、健康保険も適用されるが、異物感や、ずれる、はずれるなどの違和感がある場合も多い。



これらのデメリットを補う治療法として、インプラント義歯が最近注目されている。インプ



となる。

「ただし、これらの条件を受け入れていただいても、こちらからお断りする場合もあります。インプラントと歯肉のすき間から細菌が入り込んで、歯周病と同じような病状(インプラント周囲炎)になると、インプラントを支える歯槽骨が溶けてしまい、せつかくのインプラントがダメになる可能性があります。このため、歯磨きやフロスなどの口腔ケアがしっかりできない場合や、インプラント治療が終了した後定期的に健診を受けられない場合には、インプラント義歯が向かないこともあるので注意が必要です。」

先進医療に認定された「インプラント義歯」

以前は、インプラントを埋め込むあごの骨が量・質ともに十分

ラントとは、体内に埋め込むものという意味で、歯科治療の場合、あごの骨にインプラント(人工歯根)と呼ばれる金属のネジを埋め込み、その上に人工の歯を固定する。

治療の前に

治療に際しては、まずいくつかの検査が行われる。病歴などの聞き取りや血液検査を行い、インプラント治療に向きない疾患や、出血が止まりにくいなどの症状がないか、全身状態をチェックする。また、あごの骨にインプラントを埋め込むことになるため、歯のレントゲンに加え、あごのCTを撮影して骨の形や状態を確認する。例えば、高齢の女性に多い骨粗しょう症が見られる場合や、骨粗しょう症の予防薬を飲んでいるためにインプラントの埋め込みに影響がある場合などには、整形外科などとの連携が必要となる。このような全身疾患がある場合などに、他の科と連携してスムーズに対応できるのが兵庫医科大学病院の特徴の一つでもある。



歯科口腔外科 高岡 一樹 講師

でなければ治療ができなかった。「しかし現在では、ケガやがんの手術などであごの骨の一部がなくなってしまうなどして、従来の入れ歯などでは噛む機能の回復が困難な場合、別の部分の骨をあごに移植したり、人工骨により骨を再生することで治療ができるようになっていきます。こう話すのは、歯科口腔外科の高岡一樹講師。一般的なインプラント義歯の治療とは異なるこのような治療は、厚生労働省の先進医療「インプラント義歯」として認められており、全国で50ほど(平成23年2月現在)の認定医療機関でのみ治療することができる。兵庫医科大学病院もそのうちのひとつとして、治療にあたっている。

インプラントのデメリット

「インプラントは優れた治療法なのですが、患者さんが躊躇される理由が3つあります」と語るのは、歯科口腔外科インプラント外来の責任者である岸本裕充准教授。まず一つは、インプラントを埋め込むための手術が必要だということ。一般的には局所麻酔での日帰り手術となるため大きな手術ではないが、患者さんの中には手術というだけで躊躇する方もいるという。



歯科口腔外科 岸本 裕充 准教授

噛むことは非常に重要

インプラントは固定式が一般的ではあるが、総入れ歯に不満がある場合、数本埋め込んだインプラントに磁石を取り付けてその力で固定することで、取り外し式ではあるが安定感が格段に増すという。岸本准教授は言う。「噛むことは、健康な生活を送る上で非常に大事なことです。インプラント義歯を使った治療法はほとんど進んでいますが、入れ歯の違和感などで悩みの方にはインプラント以外の解決法もあるかもしれません。まずは相談してみることをおすすめします。」

診療実績 (2010年1~12月)

インプラント埋入術・・・56件

【臨床成績】
「インプラント義歯」先進医療取得
現在まで98%以上の残存率

がん

目・耳・鼻・口の病気

胃・腸・食道の病気

呼吸器の病気

骨・関節の病気

脳・神経の病気

皮膚の病気

肝臓・すい臓・胆嚢の病気

腎臓・泌尿器の病気

循環器と血液の病気

全身の病気

こころの病気

女性の病気

子どもの病気